

令和5年 稲作情報 第4号

令和5年7月3日発行 宮城県亘理農業改良普及センター

電話 0223(34)1141 FAX0223(34)1143 ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

【気象経過】

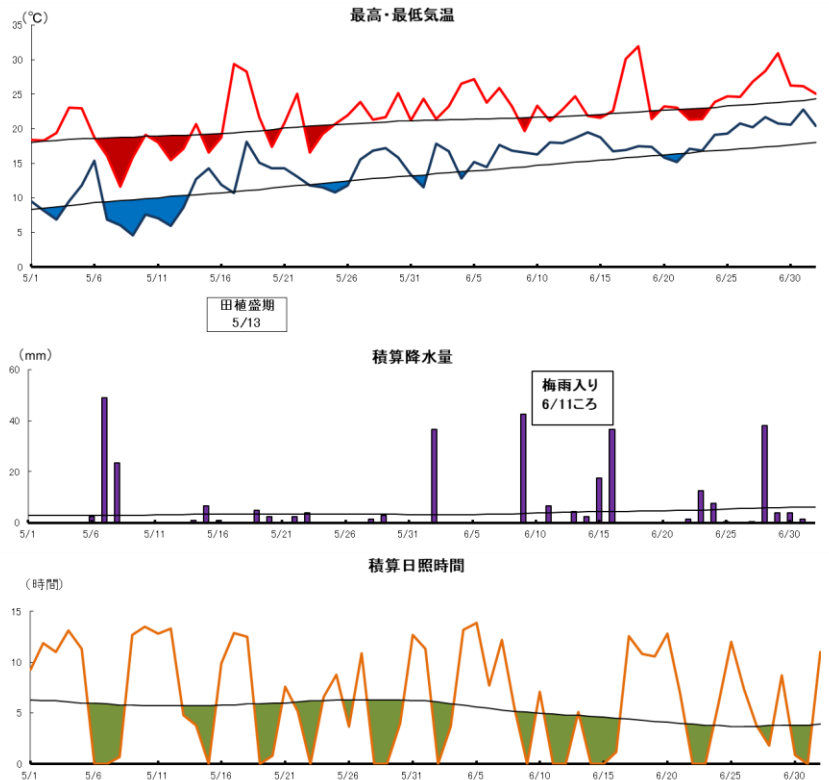
観測地点：亘理アメダス

(6月)

6月の平均気温は21.0℃(平年差+2.3℃)、日照時間は175.3時間(平年比120%)と高温・多照で経過しました。

6月の積算降水量は215mm(平年比164%)でした。

東北南部の梅雨入りは6月11日頃(平年より1日早い)でした。



【移植栽培】

1 生育状況

NO	品種	調査地点	田植月日	栽植密度 (株/㎡)	7月1日調査 (6/30)			
					草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (GM)
1	ひとめぼれ	名取市	本年値 5月16日 平年比 (3日早い)	18.1	48 102%	523 112%	10.6 0.6	41.7 -2.1
2	ひとめぼれ	亘理町	本年値 5月12日 平年比 (4日遅い)	18.9	45 87%	348 61%	10.4 0.5	41.5 1.4
3	ひとめぼれ	山元町	本年値 5月20日 平年比 (1日遅い)	20.2	44 86%	432 102%	9.8 0	43.0 -2.2
	ひとめぼれ	3ほ場平均	本年値 5月16日 平年比 (1日遅い)	19.1	45 91%	434 89%	10.3 0.4	42.1 -1.0
4	だて正夢	亘理町	本年値 5月6日 平年比 (平年並)	17.9	68 110%	557 111%	10.6 0.5	46.9 2.2
5	金のいぶき	岩沼市	本年値 5月12日 平年比 (2日遅い)	18.3	52 102%	591 134%	11.0 0.9	41.0 2.9
6	つきあかり	岩沼市	本年値 5月3日 平年比 -	15.5	69 -	467 -	10.8 -	44.9 -

平年値は、NO. 1～4は、同一ほ場で過去5か年の平均値。NO. 5は、同一ほ場で過去2か年の平均値。

7月1日調査(6月30日実施)の1㎡当たり茎数は、幼穂形成期の目標茎数並を確保しています。幼穂は、「つきあかり」で0.5mm確認されましたが、それ以外では、まだ確認されませんでした。

2 今後の管理

(1) 幼穂形成期における生育量の目安と追肥窒素量

品種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm，出穂20～25日前）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)
ひとめぼれ	56～59	470～530	38～40 (4.4～4.8)	1.0
ササニシキ	62～68	720～760	34～36 (3.8～4.2)	0※ ¹
つや姫	70～75	550～580	35～37 (4.0～4.3)	2.0
だて正夢	64～70	390～460	40～42 (4.8～5.1)	0※ ²
金のいぶき	65～70	570～620	33～35 (3.6～4.0)	1.0
つきあかり	47～55	370～420	40以上	1.0

※¹「ササニシキ」は倒伏しやすいため（耐倒伏性：弱），倒伏を助長する幼穂形成期の追肥は控える。

※²「だて正夢」は減数分裂期2.0/10a追肥を基本とするが，幼穂形成期に生育量が不足している場合は，1.0kg/10a追肥する（この場合減数分裂期の追肥量は1.0kg/10aとする）。

(2) 中干し

目標茎数を確保したら、中干しを実施ください。中干し実施期間は7～10日程度ですが、遅くとも幼穂形成期までに終了してください。

中干し終了後急に湛水状態にすると、土壌の還元が急激に進み根を傷めることとなりますので、徐々に湛水状態に戻しましょう。

(3) 斑点米カメムシ類防除

出穂直前に草刈りをすると水田内にカメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔等の草刈りは7月中旬（水稻出穂10日～15日前）までに実施しましょう。

発生量が最も多いアカスジカスミカメは、イヌホタルイを利用して水田内で繁殖します。イヌホタルイが水田内に残っている場合は、7月上旬までに防除しましょう。

(4) いもち病防除

（特に上位葉における）葉いもちは、収量や品質に直接影響を与える穂いもちの伝染源になります。病気が進行してからの防除では十分な効果が期待できないので、予防・早期発見・早期防除が重要です。

葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの**葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)**

（<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>）で確認できます。

いもち病に感染していれば、葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)の好適条件発生の10～14日後にはほ場で病斑が確認され始めますので、ほ場の観察を行いましょう。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和5年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/9	—	—	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/11	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
6/12	○	○	○	○	●	○	●	○	●	△	—	—	●	△	●	○	●	●
6/13	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—
6/14	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/15	△	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	●	—	●	●
6/16	△	△	—	△	△	△	—	—	△	—	○	—	●	△	—	△	—	—
6/17	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/19	—	—	—	—	—	—	—	?	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—
6/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/23	△	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	—	△
6/24	—	—	—	○	△	△	○	○	—	△	○	○	○	●	○	○	—	○
6/25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15~25℃, 前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	
?	判定不能	

【乾田直播栽培】

1 生育状況

NO	品種	調査地点		播種月日	栽植密度 (条/m)	7月1日調査 (6/30)			
						草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM)
1	ひとめぼれ	岩沼市	本年値	3月15日	4.2	51	486	9.8	36.8
			平年比		条間24cm	125%	94%	1.2	-1.5
2	ササニシキ	岩沼市	本年値	4月3日	3.4	56	480	9.2	35
			平年比		条間30cm	102%	60%	0.2	-3.8

平年値は、NO. 1は、同一ほ場で過去5か年の平均値。NO. 2は、令和3年度の値。

7月1日調査（6月30日実施）の1㎡当たり茎数は、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」とも約480本/㎡で、移植並の茎数となりました。葉色は、平年より淡くなりました。

2 今後の管理

(1)水管理

ほ場は湛水後も十分に固いことから、収穫作業を考慮した中干しは必要ありません。

慢性的な湿田であれば、中干しによる生育改善効果がみられますが、移植栽培に比較して還元の進行も小さいので、稲の生育が停滞するなどの症状がなければ積極的な中干しは必要ありません。

(2)葉いもち対策

水面施用剤を防除適期(6月末まで。遅くとも7月5日頃までに)に散布してください。

葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの**葉いもち感染好適条件 の出現状況(BLASTAM)**

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

(3)斑点米カメムシ類防除

出穂直前に草刈りをするとう水田内にカメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔等の草刈りは7月中旬（水稻出穂10日～15日前）までに実施しましょう。

農作業中の熱中症に注意しましょう！（農作業中の熱中症による死者数が急増しています）

高温時の農作業や単独作業を避け、20分おきに休憩・水分補給しましょう。

冷却タオルやファン付きウェアなどの熱中症予防グッズを活用しましょう。